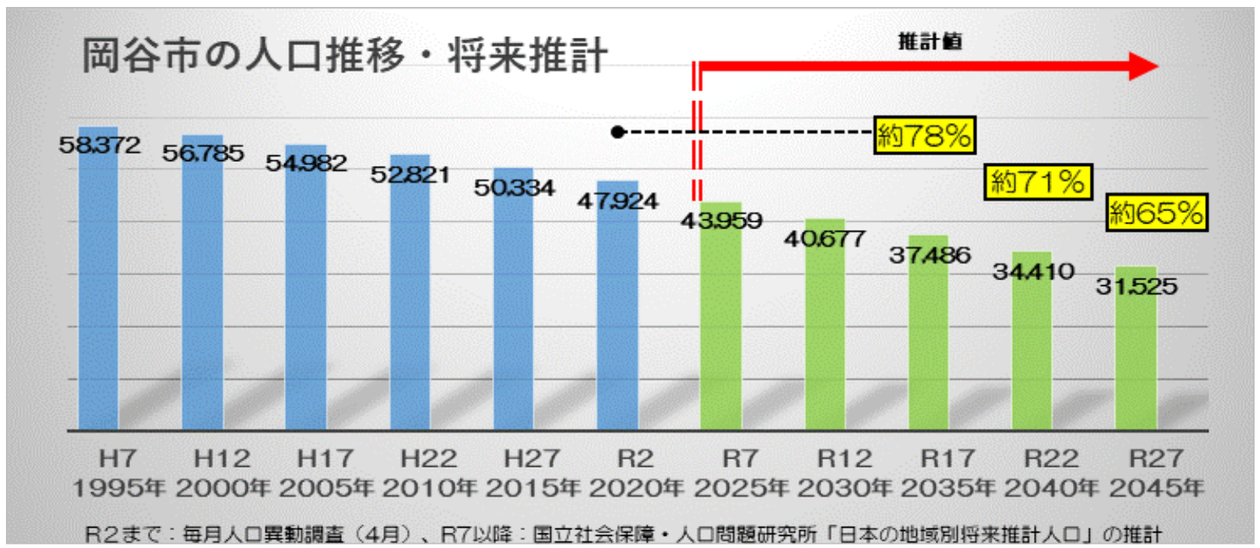
少子化の進行を踏まえた将来の学校の姿

岡谷市教育委員会　資料

１．岡谷市の人口推移と将来推計



少子化・人口減少社会の進展により、岡谷市においても将来の人口減少が見込まれています。

国立社会保障・人口問題研究所による推計では、１５年後の2035年代は現在の約８割、2040年代には約７割、25年後の2045年代には６５％程度まで減少すると見込まれています。

２．子どもの数の推計

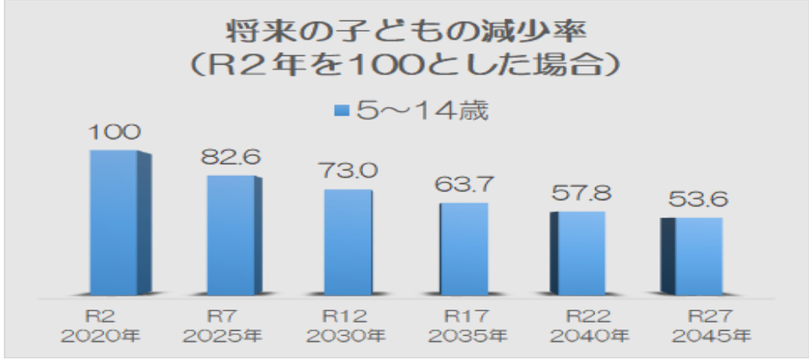
将来人口推計の内、児童生徒が含まれる年代（５歳から１４歳まで）を抽出しました。

2020年を100とした場合の変化率は、岡谷市全体の人口よりも大きな減少が見込まれます。

18歳以上や高齢者の年代の人口の動きより、少子化の影響が大きいことが推測されます。

仮に、この推計のとおり進行した将来の子どもの数は、現在から<u>１５年後に約６割まで減少</u>し、<u>２５年後では約５割近く</u>になってしまう恐れがあります。

区分	R2 2020年	R7 2025年	R12 2030年	R17 2035年	R22 2040年	R27 2045年
5～14歳	3,899	3,221	2,846	2,485	2,254	2,088
変化率	100	82.6	73.0	63.7	57.8	53.6



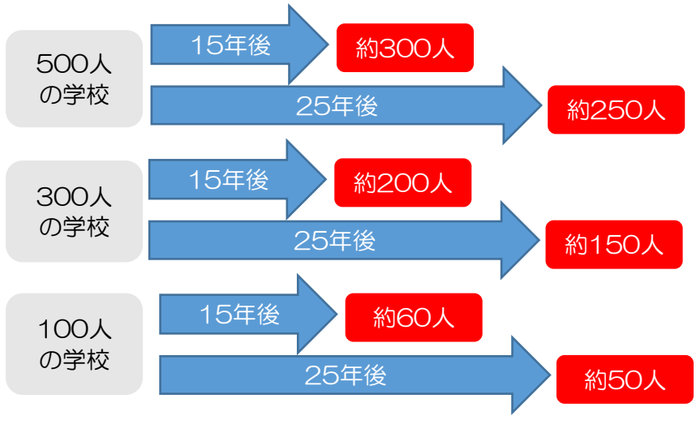
３．将来の学校の規模

令和３年度、市内小中学校には約3400人強の児童生徒が在籍しています。

学校名	児童数	学校名	生徒数
川岸小	327	西部中	197
神明小	352	北部中	341
小井川小	290	南部中	238
岡谷田中小	363	東部中	503
湊小	101		
長地小	516		
上の原小	200		
小学校計	2,149	中学校計	1,279
小中学校合計			3,428

※R3.5.1現在

子どもの減少率を学校規模に置き換えると



人口推計を基にした将来の学校別の児童生徒数の想定については、少しのずれで数年先の差が大きく大きく現れるため困難ですが、ある程度の規模に置き換え、将来の学校の姿をイメージすることは可能です。

子どもの数が減少する将来の学校への影響は、少人数化により複数での学級編成が難しくなり、集団での学びに影響が生じるほか、現在の学校の規模を維持していくことが難しくなるなどが想定されます。

長期的展望のもと、今から将来の教育環境を考え、将来につながるように魅力と活力ある学校づくりを推進していく必要があります。